

取材日：2018年11月20日



糖尿病ケアチームと看護外来を活用した多職種が連携して取り組む糖尿病医療。

Point of View

- ① 医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、医療事務など多職種で構成される糖尿病ケアチームが活躍
- ② 月1回のチームミーティングで、糖尿病ケアチームが結束
- ③ 糖尿病療養指導外来で個別のきめ細かな指導を実施

社会医療法人愛仁会高槻病院
糖尿病内分泌内科主任部長

富永 洋一先生

社会医療法人愛仁会高槻病院
看護部／糖尿病看護認定看護師

山下 みどり氏

社会医療法人愛仁会高槻病院
栄養管理科／管理栄養士

上野 有里氏

チームミーティングが発展 糖尿病ケアチームの周知に

大阪府高槻市にある高槻病院は、地域の急性期中核病院として、幅広い分野における医療提供体制を構築している。糖尿病患者も2017年度では、外来患者1,929名、入院患者222名に上り、糖尿病医療でも地域の中

心的な役割を果たしている。同院の糖尿病医療の特徴を解説してくれるのは、糖尿病内分泌内科主任部長の富永先生だ。

「当院は、高齢の糖尿病患者だけでなく、1型糖尿病患者に対する先進治療、また、総合周産期母子医療センターを有するため妊娠糖尿病の診療に強みを持っています。

それらの診療を下支えするのが、多職種で構成される糖尿病ケアチーム（【資料1】）と、看護師による糖尿病療養指導外来（以下、療養指導外来）です」（富永先生）

糖尿病ケアチームは富永先生の提案がきっかけで発足したという。「私が当院に赴任した2007年以前から、1週間のメニューで教育入院が



左から富永先生、山下氏、上野氏

実施され、多職種はそれぞれの役割を担って、患者指導を行っていました。しかし、看護師や管理栄養士などのメンバーが集まって教育入院の運営や指導内容について話し合ったり、情報交換をする場がありませんでした。そこで、多職種間で定期的に情報共有し、より良いものにしていくと呼びかけて始まったのがチームミーティングです」(富永先生)

チームミーティングで話し合われた結果、教育入院の週間予定(【資料2】)がバージョンアップされた。「その後、入院患者だけでなく、外来患者の教育も必要だとの声が上がって、病棟での糖尿病教室を外来患者にも、一部開放するようになりました。

参加者が増えてきたので、今では外来患者を対象として『糖尿病公開講座』を月2回、開催しています」(富永先生)

チームミーティングは月に1回開かれ、医師4名に加え、糖尿病看護認定看護師、病棟看護師、透析担当看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、医療事務などの代表者が参加する。通常、病棟や療養指導外来、糖尿病教室の状況などを担当者が報告した後、各々の抱える問題などを相談。糖尿病ケアにかかわる多職種の情報共有と問題解決の場となり、同院の糖尿病医療の質を高めてきた。

こうした多職種が集う活動は院内でも周知が進み、2014年4月に「糖尿病ケアチーム」と正式命名されるにいった。

療養指導外来の開設により きめ細やかな指導が可能に

もうひとつの特徴の療養指導外来を担う糖尿病看護認定看護師の山下

氏が、開設の経緯を話す。

「糖尿病の患者さんが自宅で療養行動を継続するには看護師の外来支援が重要との考えから、私が糖尿病看護認定看護師の資格を取得した2012年に、療養指導外来が開設されました」(山下氏)

療養指導外来では、2型糖尿病患者へのインスリン導入についての指導を中心に、妊娠糖尿病患者や糖尿病合併妊婦への指導も数多く実施する。

「妊婦さんは、療養指導外来だけでなく、産婦人科でも指導を受けるので、統一した内容の指導を行うべく産婦人科のスタッフとも勉強会などを開いて、連携の強化を図っています」(山下氏)

具体的な手技指導や説明だけでなく、個々の患者の背景に配慮した指導や、治療に対するモチベーションの維持、向上など、患者の精神面を支える意味においても療養指導外来の存在意義は大きい。

「患者さんが話される何気ない言葉の中に、血糖コントロールにつながる重要なヒントが隠されている場合もしばしばあるので、それを聞き逃さず、指導に生かすよう努めています。療養指導外来が、患者さんが自身の生活を振り返り、療養行動を始めるきっかけやモチベーション維持につながる場になればうれしい限りです」(山下氏)

「医師は限定された時間内で、患者さんの血糖値や血圧などを診ながら投薬の調整をし、一般的な指導をす

【資料1】

糖尿病ケアチームの皆さん



メンバーは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、医療事務などで構成される。

出典：富永先生提供資料

るだけで手一杯です。個々の患者さんの生活や社会的背景に合わせた指導が必要な場合は、療養指導外来で対応してもらっています。

患者さんの中には、病識が持てずに治療を中断してしまう方や、合併症の発症や悪化をきっかけに精神的に落ち込む方が少なくありません。そんなとき、医師がいくら説明しても前向きに治療する意思を示さなかった患者さんでも、看護師が療養指導外来で時間をかけてじっくり話した結果、態度が変わり病状が改善する例はよくあります。看護師に会って話すのが楽しみで治療が継続できている人がいるのも事実です」(富永先生)

糖尿病の治療やケアは 多職種連携の上に成り立つ

山下氏は、療養指導外来を最大限に機能させるのに欠かせないのが、前述した産婦人科との情報共有のような多職種間での連携だと語る。「院内には小児看護、母性看護専門看護師のほか、16分野17名の認定看護師が在籍しているので、さまざま

な相談に乗ってもらったり、必要に応じて介入をお願いします。医療事務のスタッフには、糖尿病患者会の運営をサポートしていただき、助けられています。

また、腎症指導は透析室スタッフと、運動療法は理学療法士と連携しながら行い、退院後の状態は訪問看護スタッフから報告を受けることもあります。糖尿病の治療やケアは多職種の方々との連携の上に成り立っているのだと実感しています」(山下氏)

中でも管理栄養士とは、密に連携をしているようだ。

「療養指導外来の前後に栄養指導が入っている場合が多いので、指導内容の統一や指導場面で得た患者さんの情報共有のために、管理栄養士とは日常的にカルテや電話で連絡を取り合っています」(山下氏)

栄養指導を担当する管理栄養士の山野氏が話す。

「栄養のみならず、服薬の管理ができていないか、手足の傷のケアはでき

ているかなど、患者さんの話や様子から得た情報も共有するようにしています。

1型糖尿病でインスリンポンプをうまく操作できていない、家庭環境に問題があるため食事に気を配れない、壊死につながりかねない手足の傷があるといった情報があれば、すぐに、療養指導外来に電話をかけます。深刻な問題があったときに、直接、外来に出向いて報告を行うケースもしばしばです」(山野氏)

同院には栄養指導を担当する管理栄養士が6名いるが、外来の栄養指導を最初に担当した管理栄養士が、患者が入院しても引き続き担当するシステムになっている。

「患者さんに主治医がいるように、管理栄養士も担当制にすることで、継続的な指導の効果が格段に違います」(富永先生)

「担当が変わると患者さんに同じ話を何度もしていただくことになりかねず、関係構築が難しくなります。信頼関係が築けなければ、指導して

もなかなか実行してもらえませんが、担当が決まっているのは管理栄養士としてもありがたいです」(山野氏)

特定行為ができる看護師が患者にタイムリーな対応を

同院を運営する社会医療法人愛仁会では、2016年に看護師の特定行為研修指定研修機関の指定を受け、9区分19行為の特定行為研修が開始された。「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の研修を担当した富永先生に、特定行為研修について聞いた。

「研修では、医師の指示書にもとづきつつ、ある程度、看護師が自分で判断し、インスリン調整ができる技能を身につけることを主な目的にしています。研修修了後は、患者さんからの血糖値やインスリンに関する問い合わせに対して、身体状態や血糖パターンを確認したうえで、医師の指示を待たずにインスリンの施行単位数の指示を出せるようになります」(富永先生)

研修修了1期生の山下氏は、2期生以降の研修で、インスリンポンプや血糖値測定指導などの講義、実習指導に講師としてたずさわって、糖尿病看護の質向上を担っている。

「患者さんからの問い合わせや相談があった場合、受診日に関係なく、タイムリーな対応ができる点が、看護師による特定行為のひとつの大きなメリットです。

当院がある高槻市は、2018年6月に大阪府北部地震による被害を受けました。その際、被災された患者さんから、ライフラインや交通機関のマヒで来院できないため、電話で状態報告を受け、血糖推移を確認後インスリンの施行単位の変更をお伝え

【資料2】

糖尿病教育入院の週間予定表

	月	火	水	木	金
時間	10:00	10:00	10:00	10:00	
内容	糖尿病教育入院の進め方・糖尿病とは	合併症について	食事療法 (おやつとアルコールの取り方)	食事療法 (献立の立て方)	
担当	医師	医師	管理栄養士	管理栄養士	
時間		14:00	14:00	14:00	14:00
内容		病気になった時 (シックデイ)	糖尿病と 骨粗しょう症	インスリンの自己注射 低血糖の対応	クイズで学ぶ 糖尿病
担当		看護師	医師	看護師	医師
時間	15:00	15:00	15:00	15:00	
内容	フットケア	運動療法 ストレッチ	合併症はあるの? を知るための検査	薬物療法	
担当	看護師	理学療法士	臨床検査技師	薬剤師	

出典：富永先生提供資料

【資料3】

特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」区別研修の内容

到達目標

1. 多様な臨床場面において、インスリン量の調整にかかる特定行為の知識、技術及び態度の基礎を身につける
2. 多様な臨床場面において、医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につける

方法

1期当たり2～3名 6日間

1日目 2日目

- ・インスリンの適応、種類、投与方法、副作用の講義（医師）
- ・インスリンポンプの使用法の講義・実習（看護師）

↓
インスリンの種類や副作用につき事例検討（1時間）

↓
評価

3日目 4日目

- ・各種病態（高血糖昏睡、周術期、妊娠糖尿病、ステロイド使用中など）におけるインスリン量の調整の講義・演習（医師）
- ・外来でのインスリン療法と入院の適応の講義（医師）
- ・インスリン療法の患者への説明の講義・実習（看護師）

↓
インスリン量の調整や入院の適応につき事例検討（1時間）

↓
評価

5日目 6日目（病院実習）

（実習対象）

- ・外来インスリン導入（患者1名）
- ・インスリンポンプ療法（患者1名）
- ・入院インスリン導入 糖尿病教育入院（患者1名）
- ・入院中のインスリン使用患者のインスリン量調整（患者5名 カルテ閲覧）

↓
上記患者の実習の観察評価・レポート評価

出典：富永先生提供資料

しました。あとで『血糖値が高めで不安だったが、電話で指示を出してもらえて安心しました』という言葉ももらい、さまざまな課題があるとは思いますが、特定行為は災害時の診療や看護にも貢献できる可能性があると感じています」（山下氏）

先進治療の強みを生かし
地域の糖尿病医療を牽引

今後に関しては、どんな問題意識や展望を持っているのだろうか。

「管理栄養士としては、在宅の患者さんをどうフォローするかが大きな課題です。たとえば、高齢で手の自由が利かなくなっても、自炊しなければならぬ場合には、生活条件や自宅にある調理器具などを理解したうえでなければ、献立やレシピの提案ができません。将来的には、管理栄養士が患者さんのお宅を訪問した後に、食事指導をするような体制も必要だと思います」（上野氏）

「療養指導外来では、糖尿病性腎症の透析予防の指導について2期から

3期までを担当しており、3期から4期になれば透析室スタッフに依頼します。対象者は多いと思うのですが、実際の指導件数はまだ少ないので、対象者の早期把握や患者選定、指導内容の見直しは急務です。

糖尿病ケアチームにおいては、新しい血糖降下剤やSAP（センサー付きポンプ療法）、FGM（フラッシュグルコースモニタリング）などが登場する中、適切な治療法は患者さんの病態や生活などによって異なるので、チーム力を発揮しながら個々の患者さんに応じた治療と看護を提供していきたいですね」（山下氏）

富永先生は、地域への貢献と、より充実したチームづくりを目標に掲げる。

「CSII（持続皮下インスリン注入療法）やCGM（持続血糖測定）などの先進糖尿病治療を積極的にとり入れ、外来でも導入できるところまでこぎ着けました。そうした当院の強みを、地域のご開業の先生方に知っていただき、存分に利用してもらうのがひとつの目標です。

さらに、糖尿病ケアチームのいっそうのレベルアップにも注力していきます。そのために情報共有にとどまらず、症例検討会や学会発表に向けた勉強会の開催を考えています」（富永先生）

同院は、多職種による糖尿病ケアチームと療養指導外来をフル活用した糖尿病医療で、地域の患者や医師たちとしっかり結びついていくべく前進中だ。

社会医療法人愛仁会高槻病院

〒569-1192

大阪府高槻市古曾部町1-3-13

TEL：072-681-3801